

【活動のご報告】

中小口防災を学ぶ会

「中小口防災座談会」

2月12日(木)、中小口防災を学ぶ会による「中小口防災座談会」が、中小口地区コミュニティセンター1階会議室にておこなわれました。今回のテーマは「地震で被災したときの話」でした。講師に防災士の川橋さんをお迎えして、17名が参加して防災、特に被災時の食事について話をしました。

愛知県では南海トラフ地震への備えが言われていますが、具体的に個人でどんな対策ができるのかを話し合いました。被災から3日間は公助（国・自治体などの援助）が入らない可能性が高いです。自助・共助で乗り切る必要があります。

水はペットボトルの備蓄が手軽ですが、水道水もそのまま容器に入れて密閉すれば3日ほどは使えるそうです。沸騰させるとカルキがぬけて消毒の用を成さないの、日持ちしません。大口町では数カ所で災害時給水ステーションが整備されつつあり、中小口区の身近では上小口グラウンドで、水道部が仮設の蛇口を設置した後に給水が可能になるそうです。いずれにしても、保管容器に直接口をつけて飲むことは、衛生上避けるべきとのお話がありました。

被災時は、たいていの場合停電しますが、冷蔵庫ももちろん止まります。ただ、ドアを開けなければ2~3時間は大丈夫と言われています。その間に、足の早いものから加熱調理して食べてしまうのが良いでしょう。備蓄として用意する非常食は常温保存が可能ですので、ほかに食べるものがなくなってから手を付けた方がよいです。

非常食は昨今いろんな種類が出ており、大口町の備蓄品ではアレルギー対応食なども用意されています。ただし介護食ややわらかおかずなどはありません。乳幼児や高齢者用の食事は、水を加えたりつぶしたり刻んだりなどの工夫が必要になるでしょう。従来の乾パンやビスケットなどは、特に高齢者になると、水分が不足し嚥下できないということも起こるので、注意が必要です。

最後に非常食、レトルト袋にお湯を注いでつくるドライカレーやわかめご飯、ラーメンなどを試食しました。缶入りのパンもあります。みなさん喜んで口をつけていましたが、昔より格段に味が向上したとのこと。少し不安が払しょくされた、試食の時間でした。

文責・事務員 水野

